

## 年間第三十主日

第一朗読 出エジプト 22・20-26

第二朗読 一テサロニケ 1・5c-10

福音朗読 マタイ 22・34-40

2020.10.25

高円寺教会 9:30 ミサ

油谷弘幸神父（東京教区）

お手元の「聖書と典礼」の最初には、今日のテーマなんですかね、「神様を愛しなさい、主を愛しなさい、隣人を愛しなさい」と書いてあるんですけども、これ、命令形です。わたしは、正直、これはむごい言葉だと思います。わたしたちのごく自然な形で神を愛したい、隣人を愛したいと思っている。自分自身において、また他者との関係において、神に素直に、単純に、心から賛美と感謝を捧げたいと思って生きている。むしろ、それが完全に全うできていないことがわたしたちを苦しめているし、わたしたちのごく自然に神も人も愛したいという中でずたずたになっているのに、更に追い打ちをかけるように命令をして、「愛せよ。神を愛せ。人を愛せ」と言うと、「勘弁してくださいよ」って正直言いたくなるので、この「聖書と典礼」の最初のメッセージはちょっと酷だなと思っております。

わたしたちは、皆さんは、この一週間本当に色々な形で人との関わり、また仕事や家事に勤しんで、本当に一所懸命頑張ってこられたことだと思います。で、わたしたちは良く言われるんですが、人間の苦しみ悩みの70パーセントは人と人との関わりだというふうに言われている。だから、皆さんも家庭や会社や様々な所で人間関係の軋轢に苦しみながら果たすべき仕事を、家事を、一所懸命生きてこられて、今ここにおいでになる。十分やっけてこられた皆さんに対して、「もっと神様を愛せ。もっと隣人を愛せ」と、そういうふうに言うのかと思うと、ちょっとがっかりしてしまいます。「もう勘弁してくださいよ」と。そして、今日の第一朗読に「寄留者を、寡婦や孤児を、苦しめられている人たち、また経済的に、精神的に貧しい者、この方々に心を掛ける」と言われていて、「できるならやりたい。でも、現実にはそういう方々の支援、援助をすることは、わたしにはできない」。もしこれを精神的なもの、霊的なものとして捉えて、霊的な、精神的な寄留者、精神的な寡婦や孤児、精神的な貧しさを持っている方々、こういう方々に対して関わろう、支えようって思う。でも、そういう日常生活、会社や家庭の中で、どうもそういう方々とうまくマッチしない。こんなにこの人のことを思っているのに、ずれてしまう。そういう皆さんが今ここにおいでにな

るので、「もっと神を愛せ。もっと隣人を愛せ」と言うよりも、わたしは、今日の聖書から、皆さんそれぞれに与えられている神の声を聞いていただきたい。

それは何か。「あなたは、あなたは気が付いていないかもしれないけれども、十分わたしを愛してくれた。神のかの字も宗教のしの字も祈りのいの字も無かったかもしれないが、わたしの目から見ると、あなたは十分に神を、イエスを、このわたしを日常生活の雑事の中でちゃんと愛してくれたということを、あなたは分かってる？ 大丈夫なんだよ。あなたはわたしを愛してくれた。そして、あなたは自分自身で全く気が付いていないかもしれないけれども、あなたは最善を尽くして、あなたの周りの人々を十分に愛してくれた。あなたのそばにいた寄留者や寡婦や孤児や貧しい人たちを十分に愛したということを、あなたは全く気付いていないかもしれないが、わたしは知っているのだ。だから、よくやりましたね」という、このことをしっかりと掴んでいただきたい。そして、神はこう言う。「わたしはあなたに命じない。神を愛せよ、隣人を愛せよとは全く命じない。というよりも、あなたは神を愛せる、隣人を愛せるという、その能力に満ち溢れている人だから、あなたは大丈夫。わたしを愛することができる。隣人を愛することができる」。

だから、今日与えられる皆さんへのメッセージは命令形ではありません。第二朗読のちょうど真ん中にあります。「あなたがたの信仰や生活は何も付け加えて言う必要はない。大丈夫。十分にやれている。そして、十分にやれる。何も付け加える必要はない」。

このあなたが今ここにおいでです。このあなたから新しい一日、新しい一週間が始まっていくこと、このことをしっかりと、この主の祭壇で一緒に改めて確認したいと思います。あなたがそういう人であることを、「よくできました」というサインとしてパンとぶどう酒の形で皆さんにぽーんと押してくださる。「あなたがたの信仰や愛については、何も付け加えていう必要はない」。どうぞこのことを一緒にしっかりと心で受け止めたいと思います。